

博士課程教育リーディングプログラム事後評価 ヒアリングにおける事前質問事項

機 関 名	大阪大学	整理番号	K03
プログラム名称	ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム		
プログラム責任者	尾上 孝雄	プログラムコーディネーター	清水 浩

当日の説明（プログラムコーディネーターによるプログラムの進捗状況等の説明 25分）においては、以下に示す質問事項への回答を含め、事後評価調書に基づき評価項目に沿ったプログラムの進捗状況の詳細等について説明願います。

なお、ヒアリング当日は別添「ヒアリング時に使用する説明資料の様式等について」に基づき、配付資料30部を持参願います。

1. 事後評価調書31ページ以降に記載されている以下の項目について、本プログラム履修生と非履修生との比較を示してください。
 - (1)修了後の進路
 - (2)留学生の受入人数・日本人学生派遣人数
 - (3)学生の学会発表数・学術雑誌等への論文発表数とその割合(在籍者数に対する発表者数の割合)
2. 事後評価調書13ページの「20.プログラムの実績（プログラムにおける特筆すべき成果）」に関して、以下の内容について示してください。
 - ・非履修生における受賞実績
 - ・履修生・非履修生それぞれにおける他研究科の学生との融合研究に関する実績
(それぞれの学生の専門領域と融合領域の区別が分かるように表に示してください)
3. 事後評価書30ページの表1に5つの例が記載されているが、修了者の学位論文題目14件全てを示して、融合領域という視点で、専門領域との差異を数行程度で簡潔に示してください。
4. 「斉同熟議」という句がこのプログラムで愛用されているが、どのような効果を上げているか説明してください。
5. プログラムの支援期間終了後の継続を見据え、大学全体としてどのような体制を構築しているか、また、どのように財政支援を行うことを検討しているのか、説明してください。その際、第3期中期目標・中期計画にどのように記載しているのか説明してください。
6. 学長をはじめとした大学執行部、プログラム責任者の目から見て、採択プログラムに参画している学生の教育効果における最大の成果をどのように考えているか。また、本プログラムを契機に、大学全体にどのような波及効果が及んでいると感じるか、具体例を挙げて説明してください。